

◇編集後記◇

新年度より編集委員が入れ替わり、三重大学・笠島委員長のもと新しい体制の準備をしていた矢先に、3月11日の未曾有の東日本大震災に襲われた。この震災では東北地方を中心に幅広い地域で経験したことが無い甚大な津波被害に見舞われた上に、福島県を中心に広範囲な地域において東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射線・放射能の問題が大きく顕在化し、今後長期的にある一定レベルの放射線と向き合わざるを得ない環境にある。国内はもとより、世界各国から幅広い絆のもと復旧・復興に力が注がれると同時に、科学的な見地からも協力が寄せられている。一方、科学的知見の発信が強く求められている。後世にきちんと記録を残すことも重要であり、編集委員会としては前号で示したように今月号より幅広く震災関連の特集を組む方針が示された。震災特集は、トピックスを設定し論文を募集するのではなく、長期的に、職域に限定せず一般生活も含め震災関連論文の積極的な掲載を進める形で生まれ、投稿された論文から震災に関連したものを特集論文としてピックアップしていく方針である。

本号でも、多くの方が自身も被災者でありながら復旧活動に従事する「被災地公務員の心的負担」に関する話

題、加えて、理事長名で「東日本大震災に関連した作業における労働者の熱中症予防対策について」が掲載された。被災地においては就労の問題もクローズアップされている。震災とは直接関係ないが、本号では非正規雇用の健康に関する詳細な総説も時宜を得た内容で掲載された。

最後に、毎年夏に発表される雑誌のインパクトファクター(IF)について、JOHの最新のIFが1.7と発表され、過去2年より随分と改善した。前編集委員会の幅広い努力の成果が現れてきているところかと思う。雑誌をより良いものにするには、会員による幅広い情報の投稿が求められる。また、投稿論文が受理された場合も、そこで喜んで終わりとせず、最終掲載プルーフの確認まで責任を持って作業し、より良い雑誌を皆さんで作らしましょう。先日、最終掲載用プルーフを確認していて、意外と多くの修正ミスが残っているのはやや残念であった。著者、査読者、編集委員会がより良い共同作品を仕上げるつもりで、雑誌をより価値のあるものにしていきましょう。

今後も、より一層皆様のご支援をお願いいたします。

(櫻田尚樹)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：笠島 茂 (三重大)

副委員長：櫻田尚樹 (国立保健医療科学院)、杉森裕樹 (大東文化大)、高尾総司 (岡山大)、
玉腰暁子 (愛知医大)、那須民江 (名古屋大)、西田和子 (久留米大)、平工雄介 (三重大)、
藤野善久 (産業医大)、毛利一平 (労働科学研究所)、八谷 寛 (名古屋大)

石竹達也 (久留米大)、井上和男 (帝京大)、岩崎健二 (労働安全衛生総合研究所)、植嶋一宗 (三重大)、梅津美香 (岐阜県立看護大)、小笹晃太郎 (放射線影響研究所)、萱場一則 (埼玉県立大)、川口陽子 (東京医歯大)、熊谷信二 (産業医大)、黒沢洋一 (鳥取大)、近藤尚己 (山梨大)、酒井一博 (労働科学研究所)、佐々木美奈子 (東京医療保健大)、菅沼成文 (高知大)、田中昭代 (九州大)、土井由利子 (国立保健医療科学院)、中尾睦宏 (帝京大)、中村裕之 (金沢大)、馬場園明 (九州大)、原田浩二 (京都大)、東 尚弘 (東京大)、福島哲仁 (福島医大)、堀口兵剛 (秋田大)、丸山総一郎 (神戸親和女子大)、三木明子 (筑波大)、三宅達郎 (大阪歯大)、村田勝敬 (秋田大)、八幡勝也 (産業医大)、大和 浩 (産業医大)、吉田貴彦 (旭川医大)、渡邊博且 (産業医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番